

地域における理解促進に向けた取組について

1. 地域連絡協議会の開催

①協議会の趣旨

地域住民に、感染症研究拠点整備に関する検討状況に関して情報提供を行うとともに、地域住民の安全・安心の確保等について協議をするため、長崎県・長崎市・長崎大学による協議会のもとに地域連絡協議会を設置。

②地域連絡協議会の構成員(令和元年7月17日時点)

1. 近隣連合自治会長・自治会長(7名)

- | | | |
|-----|-------|------------|
| (1) | 石田 和典 | 高尾地区連合自治会長 |
| (2) | 梶村 龍太 | 平野町山里自治会長 |
| (3) | 久米 直 | 山里地区連合自治会長 |
| (4) | 田中 通孝 | 江平自治会長 |
| (5) | 道津 靖子 | 山里中央自治会長 |
| (6) | 内藤 勉 | 平和町自治会長 |
| (7) | 松尾 寿和 | 本尾町自治会長 |

2. その他地域住民等(5名)

- | | | |
|------|-------|------|
| (8) | 犬塚 純一 | 公募委員 |
| (9) | 神田 京子 | 公募委員 |
| (10) | 寺井 幹雄 | 公募委員 |
| (11) | 原 拓也 | 公募委員 |
| (12) | 藤原 義博 | 公募委員 |

3. 学識経験者・専門家(7名)

- | | | |
|------|--------|-------------------------------|
| (13) | 泉川 公一 | 長崎大学病院感染制御教育センター長・医歯薬学総合研究科教授 |
| (14) | 里 隆光 | (株)長崎経済研究所顧問・長崎都市経営戦略推進会議議長 |
| (15) | 福崎 博孝 | 弁護士 |
| (16) | 宮崎 辰弥 | 日本労働組合総連合会長長崎県連合会長 |
| (17) | 森崎 正幸 | 長崎県医師会長 |
| (18) | 山下 肇 ○ | 弁護士 |
| (19) | 吉田 文彦 | 長崎大学核兵器廃絶研究センター長・教授 |

4. 行政(2名)

- | | | |
|------|-------|----------------|
| (20) | 伊藤 幸繁 | 長崎県福祉保健部医療政策課長 |
| (21) | 梶原 英二 | 長崎市市民健康部地域保健課長 |

5. 長崎大学(7名)

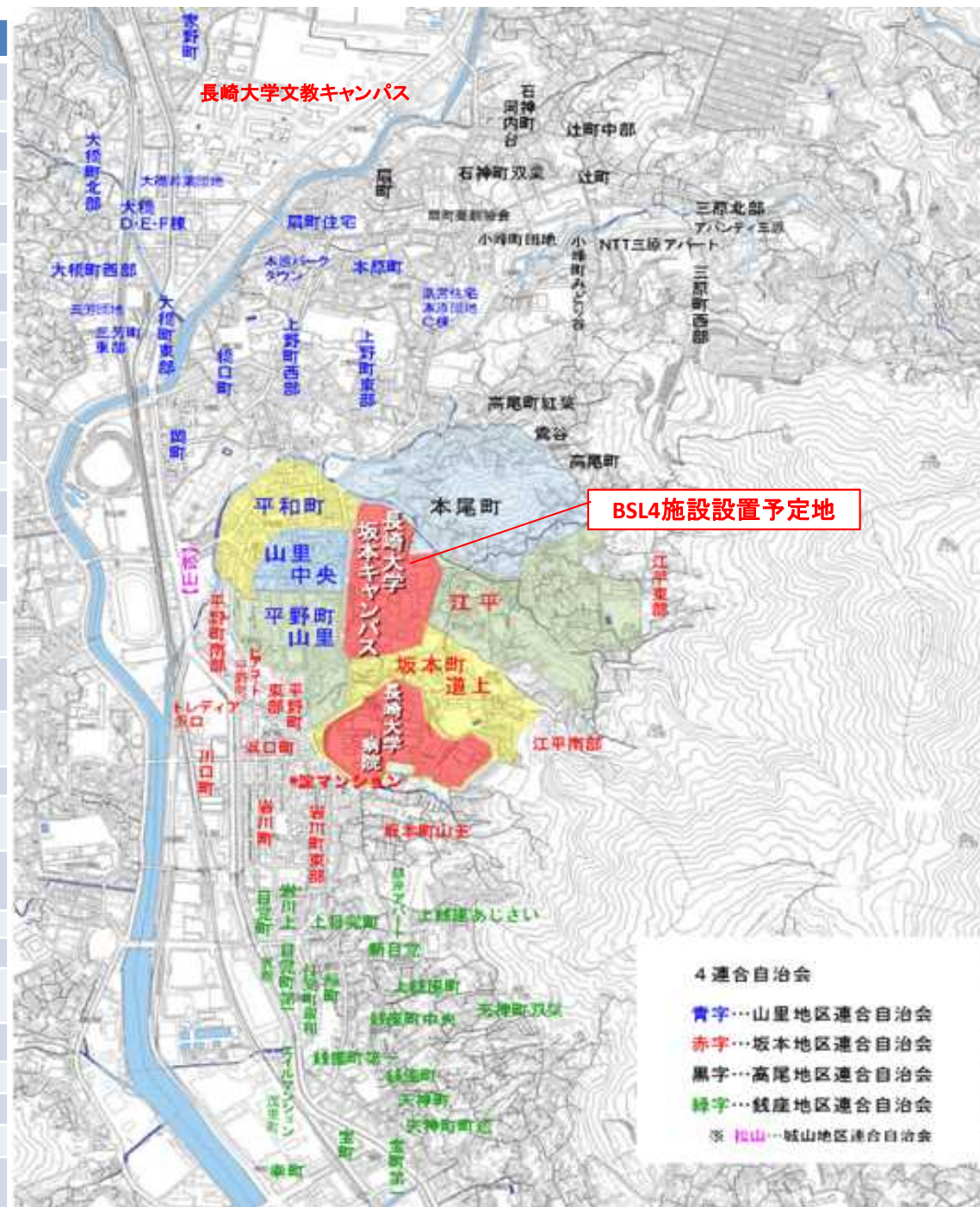
- | | | |
|------|--------|--|
| (22) | 調 漸 ◎ | 長崎大学学長特別補佐・教授 |
| (23) | 安田 二郎 | 長崎大学感染症共同研究拠点高度安全実験(BSL4)施設設置準備室長、研究部門長・教授 |
| (24) | 南保 明日香 | 長崎大学感染症共同研究拠点人材育成部門長・教授 |
| (25) | 中嶋 建介 | 長崎大学感染症共同研究拠点施設・安全管理部門長・教授 |
| (26) | 深尾 典男 | 長崎大学感染症共同研究拠点地域連携部門長・教授 |
| (27) | 二村 英介 | 長崎大学感染症共同研究拠点総務部門長・教授 |
| (28) | 森田 公一 | 長崎大学熱帯医学研究所長・教授 |

(◎は議長、○は副議長)

③ 開催実績

開催日	回数	主な議題
H28年5月12日	第1回	BSL-4施設設置計画
6月2日	第2回	ウイルスの特徴、立地の地価等
6月30日	第3回	施設の安全対策、施設のリスク対策等
7月13日	第4回	国の関与、立地の安全性等
7月24～29日		熱研BSL-3施設の見学
8月3日	第5回	委員からの質問・意見
8月31日	第6回	委員からの質問・意見
9月9日		国立感染症研究所の視察
9月27日	第7回	委員からの質問・意見
12月25日	第8回	委員からの質問・意見への回答
H29年2月17日	第9回	基本構想、熱研における病原体の安全管理状況、委員からの質問・意見への回答
2月27日～3月1日		ドイツBSL-4施設の視察
5月23日	第10回	基本構想(中間まとめ)、委員からの質問・意見への回答
7月4日	第11回	基本構想(中間まとめ)、委員からの質問・意見への回答
8月22日	第12回	基本構想とりまとめ、委員からの質問・意見への回答
12月20日	第13回	基本構想、諸外国のBSL-4施設、安全確保上考慮すべき事象、委員からの質問・意見への回答
H30年2月9日	第14回	基本構想の印刷・配付、委員からの意見書、委員からの質問・意見への回答、平成30年度予算政府原案、安全確保上考慮すべき事象
3月18日	第15回	前回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答、安全確保上考慮すべき事象
5月8日	第16回	安全確保上考慮すべき事象、委員からの質問・意見への回答
6月29日	第17回	BSL-4施設の設計概要、前回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答
7月20日	第18回	委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントに基づく対応、建設までの主な工程
8月10日	第19回	委員からの質問・意見への回答
8月21日		BSL-3実験室からの排気検査
9月28日	第20回	BSL-3実験室からの排気検査結果、リスクアセスメントに基づく対応、緊急時の対応、委員からの質問・意見への回答
10月26日	第21回	第20回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答
11月14日	第22回	今後のスケジュール・委員からの質問・意見への回答
12月19日	第23回	委員からの質問・意見への回答
2月6日	第24回	今後のスケジュール、来年度予算、委員からの質問・意見への回答
R元年5月14日	第25回	今後の審議事項、建設工事の状況、予算執行状況、委員からの質問・意見への回答
7月17日	第26回	建設工事の状況、予算執行状況、委員からの質問・意見への回答

坂本キャンパス周辺の連合自治会・自治会



④ 前回監理委員会以降の開催状況、議題及び主な質疑等

○平成30年12月19日 第23回

【議題：委員からの質問・意見への回答】

委員からの主な質問・意見	大学等からの回答
住民の理解は進んでおらず、議論が終わるまでは工事着工しないということだったと認識している。地域の理解が必要であり、それが未だなされていないのではないか。	施設の設計や構造上の安全性については、説明を重ね十分御議論・確認いただき、着工する旨を前回説明した。また、マニュアルを含めた運用面については、施設を造りながら行う議論であると認識している。
住民の合意がない着工である。大学は日本学術会議の提言を無視しているのではないか。	日本学術会議の提言には、準備段階から地元自治体と連絡をとりながら、地域住民を対象としたわかりやすい説明会や意見交換会の開催が必要であるとされており、その趣旨に則って、真摯に対応するために説明会等を開催している。
外部からチェックされていることで住民の安心につながるため、第三者のチェック機関をしっかりとつくて、そのチェックを受ける体制にすべきである。	文部科学省が設置している監理委員会、長崎大学が設置している専門家会議が第三者機関にあたり、チェックを受けている。
稼働するとなった時に、日本にないウイルスを持ってくる場合には、大学の判断で進むのではなく、住民の合意やこの会議の合意を得るのか。	施設完成後には特定第一種病原体等所持者として厚生労働省の指定を受けることになり、ウイルスを持ち込むためにはまた別の指定・許可が必要になってくる。そういう時期になったら委員の意見を聞きながら進めていきたい。
賛成・反対の意見ではなく、住民の理解度や不安な点等を聞くような形のアンケートを検討すると言っていたが、検討結果を知りたい。	説明会の内容が妥当であったか、説明が分かったか、聞きたいことがないか等といったやり方等について検討している。

○平成31年2月6日 第24回

【議題：BSL-4施設建設工事の開始、平成31年度政府予算案、監理委員会の状況、委員からの質問・意見への回答】

委員からの主な質問・意見	大学等からの回答
建設工事の際には、周辺への振動・騒音は大丈夫なのか。工事の進捗が住民に分かるようにしてほしい。	坂本キャンパスの外には影響はないと想定しているが、測定器を大学敷地との境界線に設置し、騒音や振動に関する法律の基準を遵守していく。工事のスケジュールが住民に分かるよう門のところに表示したい。
文部科学省が設置する監理委員会の目的に住民の理解等に向けた取組について第三者の立場からチェックすることが含まれているが、委員に地域住民の声や活動が伝わっていないのではないか。ぜひ生の声を届けてほしい。	大学からの報告に加え、会議前後も含めて報道状況等をお知らせし、委員に対して現状を説明している。今後もどういった形でお伝え出来るか検討したい。

○令和元年5月14日 第25回

【議題：今年度委員の紹介、工事の状況、予算の執行実績、委員からの質問・意見への回答】

委員からの主な質問・意見	大学等からの回答
安全管理に向けた施設運用に関する事項については一番重要だと考えるので、時間をかけて協議するようお願いしたい。	協議すべき事項については随時受け付けているので協議していきたい。また、安全管理に関する検討状況については、ある程度まとまったところで提示したい。
さまざまな国内外の実例を参考にしながら「感染症発生予防規程」を作成しているとのことだがいつ頃までに完成予定なのか。	「感染症発生予防規程」については、施設完成後でないと確定できない部分もあり、完成は稼働直前になると思う。それらの内容や状況については都度報告したい。
病原体を持ち込む場合には地域住民の同意を得て進めるべきである。	病原体を持ち込むには、厚生労働大臣の指定又は許可が必要であり、その過程で住民の皆様を理解いただくため、事前に周知・説明したうえで手続きを進めたい。
施設を運用する際には適正な制度に基づき適正な運営を行ってもらい、透明性を持たせるためにも情報公開が必要である。	情報公開については積極的に透明性を持って公開する予定であるが、安全に関わる部分で公開できない部分があることはご理解いただきたい。
今の長崎大学病院の設備でBSL-4レベルの感染症に対応できるのか。	長崎大学病院には一類感染症患者を収容する病床を備えており、これまでに延べ600人を超える医療従事者が感染を疑われる患者の搬入訓練や個人防護具の着脱訓練等を受けている。
住民がBSL-4施設のことを知っているのか、どのように考えているのか、どのような不安を持っているのか等を聞くようなアンケートを実施することで、施設の問題点等について考えるきっかけとなるのではないのか。	今後、説明を行う際には、わかりにくかった点や不安な点等をお伺いするアンケートを実施する。また、引き続き地域住民への情報伝達については検討・実施したい。

○令和元年7月17日 第26回

【議題：工事の状況、予算の執行実績、委員からの質問・意見への回答】

委員からの主な質問・意見	大学等からの回答
事業主体である大学は、地域住民に対して真摯な気持ちで、良いことばかりでなくリスクを同時に説明した上で、地域住民の意見や気持ちを聞くようにして欲しい。	住民の皆様への情報発信や、御意見を伺う取組については、これまで実施してきているものに限らず検討・実施していきたい。
事故は人的要因により発生する可能性が高いと思うが、研究者の心身の状態に関する確認はどのように行うのか。	研究者を組織で管理していく体制を作ることが重要と考えている。具体的には、採用時の既往歴等の確認、実験期間中の健康状態等の確認、教育訓練を通じた技能の確認等を行う予定である。
研究者の身元確認には警察等の協力も必要ではないか。また、検討が具体的になった際には、協議会で内容を開示すると悪用される可能性があり、注意が必要ではないか。	身元確認については、法令で実施可能な範囲が制限されていることも踏まえつつ、今後詳細を検討していきたい。
事故時の住民への連絡について、屋外のスピーカーでは防災行政無線が聞こえないことも多く、希望する世帯に対して「防災ラジオ」の設置を検討してはどうか。	長崎市では、防災ラジオについて、自治会長や消防団長等の希望者に対して無償貸与するとともに、希望者に対して有償配布する準備を進めている。防災行政無線で放送の内容に制限があることや、情報伝達する内容の重要性・緊急性や頻度等も踏まえて、大学や市の防災・消防部局も含めて検討・相談していきたい。

2. 住民説明会等の開催(直近開催したイベント等)

○地域住民を対象とした説明会等

平成30年10月27日 平野町山里・山里中央自治会主催質問会への参加

【資料4-2参照】

11月7日 岡町自治会住民説明会

11月13日 長崎県立長崎東高等学校生徒との意見交換会

平成31年 3月2日 上野町東部・本原町自治会主催質問会への参加

令和元年 5月23日、7月12日 長崎県立西陵高校からの取材・体験学習

9月上旬 坂本・山里・高尾地区住民説明会開催予定



○地域イベントへの参加等

平成30年12月16日 山里ふれあいクリスマス会参加

平成31年3月30日 中国駐長崎総領事館観桜会参加

令和元年7月7日 山里ふれあい七夕まつり参加

8月4日 平和町商店街夏祭り参加



○市民向け公開講座等

令和元年7月11日 「ウイルス感染症とワンヘルス～私たちの暮らしに影響を与えるウイルス感染症～」(講師:安田二郎教授)

8月4日 熱研サマースクール2019

8月5日 子供夏休み科学教室2019(講師:早坂大輔准教授)

○このほか、感染症に対するニュースレターを 原則毎月
周辺自治会等に配付(毎月約4,000部)。

